第50回日本児童文学学会賞の決定について

日本児童文学学会賞、同奨励賞および同特別賞は、わが国の児童文学・児童文化研究の発展に寄与する、年度ごとの優れた業績に贈られます。

今回は、二〇二五年七月から二〇二六年六月までの一年間に発表された児童文学・児童文化分野に関する研究・評論の中から、日本児童文学学会会員の推薦等をもとに、日本児童文学学会賞選考委員会(鵜野祐介委員長・浅野法子・柿本真代・土居安子・目黒強の各委員)が選考にあたりました。結果は次のとおりです。

なお、授賞式は、一二月五日(土)午後四時より、当学会第65回研究大会の席上にて行います。

二〇二六年一〇月

日本児童文学学会会長　横川　寿美子

第50回日本児童文学学会賞

◇該当作なし

第50回日本児童文学学会奨励賞

◇渋谷百良絵(しぶや・ゆりえ)『近代童話と宮沢賢治』秀明大学出版会　二〇二五年一二月一〇日

【贈賞の理由】　本書は、童話伝統批判を踏まえながら、近代童話の成立と展開を歴史的に検討し、昔話の構造や語りの観点から宮沢賢治童話のジャンル的特性の解明を試みた意欲作である。近代童話の歴史的変遷と賢治童話のジャンル的特性との関係が十分には説明できていないものの、「童話」というジャンルを問い直す試みは、児童文学研究の活性化につながるものである。今後は、本書では取り上げられていない近代童話と賢治童話にまで目配りしながら、さらなる研究の発展が望まれる。

【受賞者の略歴】福井県生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。博士(文学)。法政大学文学部准教授。主な論文に、「宮沢賢治「オツベルと象」論：企業型農場を描く「新しい童話(メルヘン)」」(『国語と国文学』第九九巻第三号、二〇二二年三月)などがある。

第50回日本児童文学学会特別賞

◇野上暁(のがみ・あきら)

【贈賞の理由】　受賞者は、子どもの本の編集者および評論家として、児童文学・児童文化およびその研究に多大な貢献をしてきた。その一つは、『〝子ども〟というリアル　消費社会のメディアと〝もの〟がたり』(パロル舎)などの子ども論を通して、現代の子ども文化についての議論を深めたことである。また、近著『小学一年生―100年の現代史』(論創社)をはじめとする体験を踏まえた著書に加え、雑誌『鬼ヶ島通信』での「未明童話の深層」の連載などによって、歴史研究にも寄与している。さらに、日本ペンクラブ副会長、日本国際児童図書評議会(JBBY)副会長などを歴任すると同時に、巖谷小波児童文芸賞や国際アンデルセン賞国内賞などの選考委員を務めるなど、子どもの本の発展・振興にも影響を与え続けている。

【受賞者の略歴】本名・上野明雄。一九四三年、東京生まれ。中央大学を卒業後、小学館に勤務し、『小学一年生』編集長、児童図書一般書籍担当部長を経て、取締役、小学館クリエイティブ代表取締役社長、白百合女子大学非常勤講師、東京純心大学こども学科客員教授などを歴任。主著に『おもちゃと遊び』(現代書館)、『日本児童文学の現代へ』(パロル舎)、『子ども学その源流へ　日本人の子ども観はどう変わったか』『子ども文化の現代史　遊び・メディア・サブカルチャーの奔流』(以上、大月書店)、『越境する児童文学　世紀末からゼロ年代へ』(長崎出版)、『本の街・神保町ものがたり』(論創社)などがある。

【謝辞】

本賞の運営にあたり、大阪府立中央図書館国際児童文学館ならびに一般財団法人大阪国際児童文学振興財団よりご協力を得ました。ここに感謝の意を表します。